

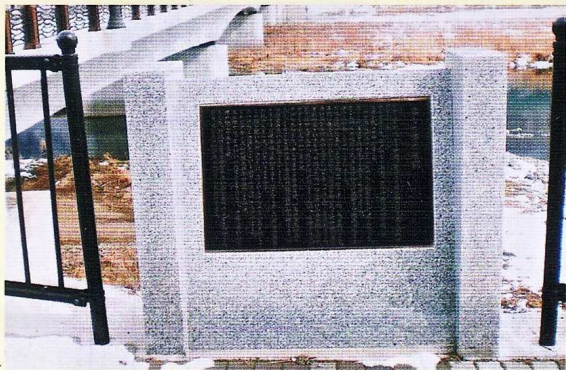
もっと知りたい
ふるさと

「恋しの湯」の

赤い小石は…

竹内 長生

戸倉上山田温泉の玄関口は昔も今も大正橋である。名のとおり大正ロマンを彷彿させる橋である。画家竹久夢二（一八八四〜一九三四）の「千曲小唄」のイメージが歩道バルコニーに組み込まれている。両側の歩道には赤い小石が埋められ、九九個ある。左岸の橋詰には「恋しの湯」伝説が碑で紹介されている。（写真①）



写真① 「恋しの湯」伝説碑

ついに百個目の赤い石を見つけて、恋しい米吉と結ばれた。この石は出湯の庭にあった。これが温泉のもので、小石（恋しの湯といわれるようになった。伝説にうたわれた百個目の赤い石は、なんと千曲市役所戸倉庁舎の入り口に存する。市民の幸せを願っているという。戸倉温泉の開祖は坂井量之助（一八五九〜一九〇五）である。戸倉中町の坂井家当主で、戸倉温泉の千曲川左岸堤防上に大きな顕彰碑がある。戸倉温泉の中興の祖と称されるのが畑山国三郎（一八七五〜一九三一）である。国三郎は上水内郡牟礼村の生れで、長野でポンプの製造販売を業としていた。早逝した量之助の坂井家を助けた藤井氏（長野・よしのや酒造）に請われて戸倉温泉の再建に当たった。千曲川の洪水の被害から戸倉温泉を守るために土盛りや街割りをするすめた。

温泉へ客をよぶため、信越本線戸倉駅まで乗合自動車ハイヤーを開設した。温泉街の入口には千歳橋をかけた。これらの事業により戸倉温泉は発展へ向った。国三郎の業績をたたえる頌徳碑も左岸堤防上に平成九年になって建立された。（写真②）

戸倉上山田温泉は戸倉温泉だけでなく、上山田温泉の発展によって大きく温泉街を形成してきた。上山田温泉を支えてきた上山田温泉株式会社は平成十九年に創立百周年を祝賀した。この会社を興した十二人の株主と八人の役員達の努力が結実して現在の姿となった。百周年記念の「温泉資料館」の開館は、温泉資料の保存と展示に大きな力を示している。

平成の温泉街は入場者、宿泊者が減り、里の湯のセールスポイントづくりが難しくなっている。千曲市の財産である戸倉上山田温泉の将来を託する平成の国三郎や八人の役員は居ないものだろうか。いつそキティパークの犬天狗に下りて川辺で客を迎えてもらおうか。



写真② 畑山国三郎翁 頌徳碑